

万葉集に於ける不滅なるもの、
久保田 伸也

万葉集に於ける不滅なるもの

制約される人向の心緒を率直に抒いた言葉

土屋文明

1111 14

吾々にはただ漫然と万葉集をば全體として不
滅的なものと感懐して居る。これは万葉集に對
する吾々の立場が寧ろさせるのでありう。
吾々は初めから萬葉集を信じてかかつて居る。
その不滅なるものだけを見るやうな態度が自然
に作られ仕舞つて居る。これは極端に偏狭
な又固陋な態度でありうが、吾々は事實さう

云ふ風に萬葉集に導き入れられて來たのであ
るから、實をいふと課題の如きものには答案
を作らざる格のなものである。
万葉集のどの位の位の部

分が真に永久的な價值を有つものであると
いふやうな疑念は屢々念頭を去來する。けれ
どもさう云ふ時試に他の歌集を手にして見る、
即古今集とか新古今集とものやうなものを手
にして見ると思は此の疑念は霧散するのが常
である。萬葉集全體が不滅的なものであると